

学 校 だ よ り

平成27年11月24日発行

校 長 谷 口 徹



地域の皆様からの温かい言葉に励まされ

勉強に行事に部活動に頑張っています。

先日から保護者や地域の皆様に、学校に対していくつか「温かい言葉」を頂きました。一つは、生徒の日常生活の中で見られた「ちょっとイイ話」から「メモ書き」が届けられたことです。

もう一つは学校が、ふるさと学習、環境学習、防災学習として、1年生から3年生までが3か年にわたって系統的に学び、取り組んでいる「松林の保全・再生学習」（総合的な学習の時間）について、たいへんうれしい受け止め方をいただいているレポートを拝見したことです。

生徒が、地域の皆様に良い評価をして頂いてことは本当にうれしいことであり、家庭でのしっかりした生活や、学校での「学び」が自信になります。生徒に頂いた言葉に心から感謝申し上げます。

- ◆10月末のある日、学校の受付窓口に下のようなメモが届きました。「お友達である、ある方に頼まれて届けました。」とのことでした。
- ◆「当たり前前（まえ）のことが当たり前になかなかできない」のですが、こんなエピソードを残してくれた「根っ中生」を誇りに思います。

不意に物々車（くるま）をひつはうて家（いえ）と出た所で中学校の男子が声をかけて
人（ひと）に会（あ）いあふ（あ）い 机（き）にひつはうと返（かえ）すとゴ（ご）とて来（き）てと持（も）つて
クラブのバック（バック）と下（した）はあいた 私は散歩（さんぽ）をかねて、ありがとうと
言（い）つた 40年（よんじゅうねん）以上（いじょう）住（す）んでるけど かなやさい中学生（ちゅうがくせい）始め（はじ）て うれしくて
た（た）まに（たまに）お茶（ちや）で一杯（いっぱい）です

- ◆次に、今年に入（い）って何度（なんど）かこの学年（がくねん）だよりでもお伝えした全学年（ぜんがくねん）で取り組んでいる「松々（まつまつ）レンジャーズ」をご指導（しどう）いただいている北村（きたむら）共二（ともじ）様が、石川県（いしかわけん）小中（しょうちゅう）校長（けいりょう）会の広報誌（くわんぱんし）に、次のようなレポ（レポート）を書いてくださいました。
- ◆「松々（まつまつ）レンジャーズ」は「今（いま）現在（げんざい）、成果（せいこ）は見（み）えないけれど、百年（ひゃくねん）木（き）になることを信（しん）じて……」という壮大（すばらしい）な活動（かどく）です。ふるさと（ふるさと）の素晴らしい環境（かんげい）を後世（ごせい）に残（のこ）そうという地域（ちいき）活動（かどく）の「お手伝（てん）い」が、こんなに喜（よろこ）んでいただけることをうれしく思います。

地域に根ざす人々

中学生パワーによる地域の松林保全・再生活動に思う

高坂・根上町緑を守る会
いしかわ「能美の松原」サポートクラブ
北村 共二氏

平成十六年秋の幼少時代を過ごした通称根上山の松が赤く枯れ始めました。

樹木医の先生に聞いたところ、松くい虫の被害で赤く枯れること、放置すれば三年で全滅の恐れがあることを知りました。

根上山には町名由来の「根上松」、源平合戦の「古戦場跡」の文化財もあり、当時は荒れ果て、まるで松くい虫被害木の草場状態でした。

この状況を私共で何とかできないか、地域の松林を回復できないかと地域の同級生の会「巳午会」の賛同で高坂・根上町緑を守る会設立を目指し、先ず松林の地権者の了解を得るため、約半年間訪問し、大切さを理解していただき、平成十七年七月正式に会を設立、巳午会・地権者・町内会役員約五十名で活動を開始し今年で十年経ちました。

全くの素人集団で、何をどのようにして松くい虫被害を食い止めるのか、再生の術を知らない私共、熱意だけは誰にも負けないことを樹木医の先生にぶつけ、専門的な知識、技術を様々なイベントに参加し会得したことが、今日まで活動を続けられた原動力だと自負しています。

この間活動の運営方法に関し、会員のみでの活動では目的を達成する事の難しさを痛感し様々な団体との協働活動が有効な事を学び、今では十団体以上、年間二千名以上の方々と密しく活動を続けています。

活動を続けて五年目、根上山での活動中、根上中学校の校長先生との出会いが根上中学生との協働活動の始まりです。

私共は学校に出向き、総合学習の時間に今や地域の松林の保全・再生が必要か、松林の役割、大切な、必要性、松の特性、海岸松林のルーツ、現状の松林の状況を説明するとともに中学生の皆さんに活動の目的を達成し、後世に豊かな緑を継承するため活動の参加協力をお願いと助けを求めました。その後毎年全校生徒対象に総合学習で実施。

早々に生徒会運営上巻のボランティア活動「松タレシ」を立ち上げ、今日まで五年間毎年五・六回位活動に参



学校林に黒松植樹

加していただいています。

この間、松が喜ぶ環境づくりの「体験活動」・・・松林での授業かき、除草、松の成長に伴う下枝切り、間伐、再生事業の抵抗性黒松の植樹、固根菌散布、松林からごみを出さない環境型社会貢献活動の松葉堆肥づくり、親書木で作ったチップを敷き道に敷詰める活動を年間を通して実施。特に平成二十三年二月大浜町地内に学校林を造成、黒松三百本を植樹し、以後松が喜ぶ環境づくりの活動を先輩から後輩に継続活動の結果素晴らしい成長を遂げています。正に「継続とは力なり」の典型です。

自分たちが植樹した松を百年木として自分の松として育てるための九谷松名札づくりと取付け活動も実施。活動を通して開発した「根上方式」の植樹法、「活動率九八％」のモデルを中学生にお渡しして全国に発信しています。日本の海岸保安林を「白砂青松」に。

平成二十二年十月に根上地区海岸保安林の保全・再生活動団体の活動スピードアップを図るため、人、物、金、企画等を提供するいしかわ「能美の松原」サポートクラブを設立、個人企業から会員を募り、趣旨賛同者か



学校林の松葉かき

ら会費をいただきた。

私は、事務担当で特に青少年参加のイベントの企画、協働団体との活動、企業の地域貢献活動の企画等体験型イベントを推進してきました。

私共は、毎年各地で開催される「白砂青松再生の会」に参加し、松林保全・再生の技術力、新情報、全国の団体の活動報告を開き研鑽し、様々な分野の人と親睦を深めました。

今年度三月二十一日、二十二日の二日間、第九回「白砂青松再生の会」能美大会（全国大会）を開催、市等の協力を得て開催し全国から五十名以上の熱意ある方々と、地域の関係団体、一般の方約二百名、今までにない大勢の参加のもと、一日目は活動発表、過去最高の団体が参加し会場は熱気あふれる雰囲気で行われ、この中で最も注目を集めたのが根上中学校松タレシメンバーズの学校林の松林再生活動の発表でした。先輩から受継いだ活動を後輩に継承して百年木を育てる内容で、活動に参加した生徒の感想も交えた発表にひととき大きな拍手で称賛されました。特に二日目の活動フィールドで早朝から学校林と隣接する保安

林の松葉かきに大勢の中学生が参加、クラブ活動前の参加者等一生懸命な活動態度に全国からの参加者は大絶賛、なぜって、なぜこの愛国の声、青少年を交えた活動のノウハウを教えてほしい、松林のあるべき姿を見た、との声に「中学生のパワー」を実感致しました。



北陸道道音壁の絵画

毎年、総合学習の時間に中学校を訪れ、目標を共有し活動を経てきた成果を全国に発信出来、私自身感激で胸が熱くなりしました。・・・継続は力なり。又、五年前から学校林に隣接の北陸道道音壁に根上中学校美術部生徒が中心に見込みを利用し、高さ二・五メートルの絵画を描写しています。是非ご覧いただきたいですね。

この企画は、いしかわ「能美の松原」サポートクラブが北陸道を管理する企業と中学校を結び実現したものです。・・・地域貢献事業として今後も継続。

この他、緑の少年団、ボーイスカウト、能美市手をつなぐ育成会、能美ワイオンズクラブ等の皆さんとの協働活動を通して体験型活動を実施しています。今後も「松林は地域の宝」「活動は進んで楽しく」をモットーに地域と学校の絆を深め、様々な団体との協働活動で「白砂青松」を目指します。よろしくお願ひ申し上げます。